

目黒稲門会会報



(題字: 眞仁田 勉 初代会長)

第110号 2026年3月

事務局: 〒153-0065 目黒区中町1-33-2 Tel: 03-6789-6549

発行人: 川崎 秀一 編集長: 細谷 清 事務局長: 伊東 佳行

ホームページURL: <https://me96tomon-waseda.la.coccan.jp/new/>

2026年 新年会を開催

2026年1月17日(土)に大隈侯由来の永楽倶楽部で新年会を開催しました(出席総数44名)。

田添麻友さんの司会で正午に開会、川崎秀一会長より挨拶がありました。

【川崎会長の挨拶】

皆様、あけましておめでとうございます。本日はお忙しい中、目黒稲門会の新年会にお集まりいただき、心より御礼申し上げます。



昨年も、皆様のお力添えにより、当会は多くの活動を実りある形で進めることができました。改めて、会員の皆さま一人一人のご支援に深く感謝申し上げます。

さて、今年も新年から早稲田スポーツで盛り上がった事と思います。母校のたすきが新春の箱根路を力強く駆け抜け、私たちに大きな感動を与えてくれました。選手たちのひたむきな姿勢は、まさに早稲田精神そのものです。品川稲門会の駅伝応援会のご案内を頂き、目黒稲門会の仲間8人で参加して沿道での応援も行ってきました。各大学の選手の皆さんの息遣いを感じる沿道応援でした。各選手とても速いスピードで駆け抜けてあっという間に通り過ぎていきます。テレビ観戦とは違った感動が有りました。ご承知の様に、往路無念の2位、復路総合4位と言う結果に終わりましたが、よく頑張ったと誉めたいと思います。又、ラグビーは2日、帝京戦に勝ち、決勝に進みましたが、残念ながら早稲田らしさを出せず昨年暮れの雪辱を果たす事は出来ませんでした。しかし、学生たちが体をぶつけ合いながらも互いを尊重し、仲間を信じて前へ進む姿は、私た

ち稲門会の絆にも通じるものがあります。スポーツを通じて示される早稲田の「強さ」と「品格」はいつの時代も私たちの心を熱くしてくれます。

目黒稲門会としても、この早稲田スポーツの精神を大切にしながら、世代を超えた交流をさらに深めていきたいと考えております。

今年も4月の早慶レガッタからスポーツ観戦部会が始まります。多くの会員の皆様の参加をお待ちしております。母校の応援歌、校歌を大声出して歌う事は大変気持ちの良いものです。

もちろん稲門会の部会活動はスポーツ観戦だけではなく、囲碁、俳句、音楽、ウォーキング等多岐に亘っています。本日も音楽を楽しむ会の皆さんにより、その活動の一端をご披露いただきます。

つきましては、出来るだけ多くの会員の皆様にそれぞれの部会に参加して頂き「来てよかった」「繋がってよかった」と感じていただける会を目指し、今年も新しい取り組みに挑戦してまいります。

さて、話は変わりますが今年は役員・幹事の若返りを図りたいと考えております。持続性を確保する為にも、役員はもとより各部会の部会長の若返りも喫緊の課題です。その役割を担って頂ける方、自薦他薦を問わず募集しております。積極的な応募を期待しております。

もちろん、新入会員そのものが増えて行かねば会の持続性は維持されません。その為の活動も更なる工夫と努力を図って行きたいと考えております。この点におきましても、皆様のご協力をお願いする所であります。何卒、宜しくお願い致します。

本日の新年会を存分にお楽しみ下さい。当会の発展に本年も変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。皆さまにとって、健康で実り多い一年となりますよう心より祈念致します。



司会 田添さん

【懇親会】

懇親会は、福井佳奈子さんの発声による乾杯でスタート、歓談へと移りました。今回は参加者の皆さんが自由に会話を楽しめるようにビュッフェスタイルの立食形式としました。続いてボランティア部会による募金のお願いがあり、初参加の原宏之さんから自己紹介と目黒稲門会への期待が述べられました。

アトラクションは会員有志の出演です。最初に三沢美奈子さんによるピアノ演奏、ドビュッシーの“アラベスク”の美しい調べに皆さん聞き入りました。

続いて中上美代子さんのエクササイズ。音楽に合わせて楽しく体を動かすリフレッシュでした。



乾杯 福井さん



初参加 原さん



ピアノ演奏 三沢さん



中上さんのエクササイズ

ここでアトラクションは一息入れて部会活動の紹介がありました。活動の実績や2026年の予定、休眠部会の活動再開など部会長、世話人からスクリーンの資料を使って熱のこもった紹介がありました。興味のある方はぜひ活動にご参加ください。



囲碁部会 市川 亘さん



俳句部会 丸山忠生さん

プロジェクトに資料を映して部会活動の紹介

再びアトラクションに戻り、お馴染みの音楽を楽しむ会による合唱と、同会世話人の広井幹也さんと小出統英さんお二人による“なごり雪”の歌と演奏が披露されました。続いては、菊地崇之さんによる“ガマの油売りの口上”、早稲田大学第二校歌“人生劇場”では学生時代を懐かしみ皆さんで合唱しました。



音楽を楽しむ会の演奏



菊地さんの熱演

食事を楽しみながら、普段なかなか会うことのない仲間たちとの懇談も会場のあちこちで花を咲かせていました。

盛会のうちに、原宏之さんの指揮による校歌斉唱で閉会となりました。



全員で校歌を熱唱

(事務局)



参加者一同

各部会からの案内・報告

俳句部会

第184回「俳句部会報告」

開催日 2026年1月27日(火)

(順不同)

川井素山	冬木の芽鱗口鳴らす鬼子母神
保井寶正	古民家の水車の影の蔭の臺
佐久間喬	校庭の手作りリンク諏訪の冬
丸山酔宵子	橋抜ける風に抗らふゆりかもめ
吉田啓悟	生き死のおまけのような日向ぼこ
青木英林	北国の息吹匂へり蔭の臺
山本草風	冬構え海沿いの街砦かな
渡辺鯨波	無くしもの見つけるコツや蔭の臺
原 晶如	女医の手に寒中のメス澄み切れり
佐久間たか子	菅公に願い事あり梅早し
中村双月	スケートや少年恋を知り初むる
菊池崇之	日脚伸ぶ定時の退社木を見上ぐ
永井正孝	春の蔭赤紫に節知らず
泉 宗季	冬木立青天見つめ息を継ぐ
長谷川直子	刃に乗りて描く弧線や冬の空

中原主宰の選んだ秀句と評

生き死のおまけのような日向ぼこ

老人がのんびりと日向ぼっこを楽しんでいる景を生き死にのおまけと詠んでいるところがうまい

冬構え海沿いの街砦かな

日本海側の冬の厳しさに備えている街の景を砦といっている

スケートや少年恋を知り初むる

スケートは直ぐに滑ることが難しい。上手に滑っているのが女性であるか少年であるかは不明だが、恋ごころのきっかけとなりうる

(俳句部会長 佐久間 喬)

麻雀部会

麻雀部会へのお誘い

当部会は、設立以来の永い歴史と伝統を誇ります。当初は年数回、品川区内の雀荘で開催されていたようですが、2020年以降開催場所を目黒区内に移し、毎年偶数月の第3月曜日に開催しており、次回(4月)で第104回の例会となります。開催場所は、目黒駅から権之助坂(右側)を30mほど下ったビルの7Fにある“麻雀 華”で、1Fにスパジロー、対面がドンキで壁に看板も掛かっています。

ルールは完全先付けで1翻が確定していなければ上がることはできません。25,000点持ちの30,000返しで、予選は卓を交代しながら各50分の3回戦を行います。最終第4回戦は得点上位から各卓へ分散し、60分1回戦で優勝者を決定します。開催開始は12:30で、5時前には終了します。

会費は一人4,000円で、会場代・飲み物代・賞金代に充てられます。掛け金はなく負けを心配することはありません。賞金は1~3位、7位、10位、BB及び参加賞です。

当会も歴史を重ねるごとに高齢化が進み、平均年齢が80歳近くに及んでいます。毎年、1~2名の会員が亡くなり、又外出が困難になるなど参加者が激減し、近年では2卓8名揃うのがやっとです。10年ほど前には5卓での開催があったことが夢のようです。掛け金がなく、気楽に半日楽しめる会ですので実力を気にされず是非ご参加ください。

ご関心のある方は、下記のメール宛へのご連絡をお待ちしています。

(麻雀部会長 村上 柁)

Mail: muramasa2193@outlook.jp

TEL: 03-3715-0513

囲碁部会

ネットリーグ戦 ~毎週末の熱き戦い~

2021年10月、コロナ禍の最中、「呼びかけの碁」と言うNet 囲碁によるリーグ戦を開始しました。以来、概ね2ヶ月に1ラウンドのペースで毎週土曜日を中心に対局日程が組まれ、各対局者は覇を競って参りました。

現在は今期第6ラウンドですが、2021年10月から通算して27ラウンド目となります。

各ラウンドが終了するごとにその結果に基づき各対局者の持ち点は修正されます。その修正された持ち点に基づき新たにハンディが修正されます。また、例会や公認大会の結果に基づき持ち点が修正されます。

よって、各対局のハンディは直近の実力差を埋めており、各対局は伯仲したものとなります。つまり、高段者から級位者まで、互角に戦えるのです。今期は既に第5ラウンドが終了しており、第5ラウンドの優勝者は小岩氏、準優勝者は保井氏でした。今現在は第6ラウンドが開始しており、3月中に終了予定です。

(囲碁部会長 市川 亘)

ウォーキング部会

第181回目黒稲門会ウォーキング部会
新春恒例七福神巡り 江戸初の谷中七福神
日時：2026年1月7日(水) 参加：10名

JR 田端駅から本駒込に通じる道の切通しを渡ると、田端八幡神社（源頼朝建立）と隣の東覚寺（福祿寿）に出る。山門脇前にある一対の赤紙仁王像は、赤紙（悪魔を消除する火の色）を患部と同じ箇所につけて、病気の身代わりを祈願するのが慣わしとなった。今では赤紙で覆われて何の像かわからない。

東覚寺から東へ与楽寺坂（画家・岩田専太郎や作家・芥川龍之介の住居があった）を抜けると与楽寺にでる。本尊は、地蔵菩薩（伝弘法大師作）・賊除地蔵。与楽寺の裏木戸を出て南下する。

西日暮里駅前と不忍通りを結ぶ道灌山通りを渡るとすぐ、青雲禅寺（恵比須・臨済宗妙心寺派）に出る。この辺りは、江戸時代の中頃から「ひぐらしの里」と呼ばれ、江戸近郊の行楽地として賑わい、花見の場所



修性院。布袋尊

として賑わった。境内には「南総里見八犬伝」の作者として有名な滝沢馬琴の筆塚や硯塚などがある。直ぐ南側には修性院（布袋尊）があり、430年余り前の天正3年（1575年）開創され、元禄年間（1668～1704）の頃に現在の地に移転した。この頃、歌川広重が『名

所江戸百景』に描かれ、俳人・菊岡沾涼の「江戸地誌」で紹介されるなどで有名になった。大きな布袋尊が印象的だった。

修性院から南下すると、谷中銀座商店街から JR 西日暮里駅に通じる「写真」と呼ばれる階段に出る。夕やけだんだん下を



「夕やけだんだん」

南に入ると台東区立朝倉彫塑館が左手にある。「墓守」「仔猫の群」「時の流れ」など、朝倉文夫の彫塑作品を展示している。早稲田キャンパスにある大隈重信侯銅像と同じ型から作られた大隈侯像が展示されている。朝倉彫塑館の前の道をさらに南下すると右手に長安寺（寿老人）が現れる。創建は江戸初期で、石碑と画家狩野芳崖夫妻の墓でも有名だ。狩野芳崖は、

文政11年（1828）の生まれ。治20年11月5日61歳で没したが、絶筆「悲母観音図」（重要文化財、東京芸術大学所蔵）は今も高い評価を得ている。

長安寺の前の小径を東へ入るとそこは谷中霊園である。谷中霊園の北端、日暮里駅に接した天王寺（毘沙門天・天台宗）で毘沙門天に拝謁。天王寺は享保年間には富くじ興行が許可され、湯島天満宮、目黒不動龍泉寺とともに江戸の三富と称され賑わった。幕末の上野戦争では、彰義隊の分営が置かれたことから、本坊と五重塔を残して堂宇を全て焼失、さらに昭和32年の放火心中事件で、五重塔も焼失した。この事件は、幸田露伴の小説、『五重塔』で知られている。天王寺から谷中墓地に戻り墓地番地・甲6号10側



小野梓先生墓所と碑

に小野梓先生（1852～1886 高知・宿毛市生まれ。1882年大隈重信侯と共に立憲改進黨を結成し、同年秋には東京専門学校設立の功労者）の墓所をお参りした。

谷中墓地を抜けて南下すると、上野公園がすぐ目の前だ。道を渡ると芸大校舎の脇（西側）に護国院（大



弁財天前にて

黒天・天台宗）がある。東叡山寛永寺最初の子院である。寛永16年（1639年）に釈迦堂で豊臣・徳川両軍の霊を弔う大念仏法要が執り行われ、その功績を称えた3代将軍徳川家光より藤原信実筆と伝えられる大黒天の画像が奉納されたのが護国院大黒天だそうだ。

上野公園の西南端にある不忍池弁天堂（弁財天・寛永寺の一部）に着き、今年の七福神巡りはこれで終了。朝倉彫塑館大隈侯像や小野梓先生墓所など、本来の七福神巡りとはまた趣が異なった立ち寄り先もあり、これも一興か。参加10名のうち有志で上野公園を抜けた先、アメ横の居酒屋で新年の七福神巡りを祝った。

（ウォーキング部会長 吉野博明）

女性企画

「健康を奏でる栄養を学ぶ」セミナー&コンサート

2025年12月21日、中目黒の東京音楽大学TCMホールで開催された「一人ひとりに響く がんゲノム医療を学ぶ」というセミナー&コンサートを鑑賞してきました。

第一部は藤田医科大学 須藤保教授(医学部先端ゲノム医療科)による、がんゲノム医療の基本から遺伝性腫瘍についての講演で、第二部は東京音楽大学特別特待生4年在学中の津野絢音さんによるピアノ独奏。音の粒がキラキラと輝くようでした。

年末の慌ただしい時期で目黒稲門会からは参加者2名でしたが、とても有意義な時間でした。このコラボレーション・セミナーは、両大学が社会貢献・人材育成の精神のもと定期的に開催しているもので、今後も「女性企画」の活動に組み込んでいきたいと考えています。

そして3月には、スマホ等によるネットトラブルの対処法や安全な利用方法のポイントを講師に解説していただく教室も予定しています。ご自身のスマホを使いながら、●偽メールやメッセージってどんなもの? ●トラブルにあわないサイトの見分け方は? ●ネットショッピングの注意点は? などスマホ等について「教えてくれる人がいない」「いまさら聞けない」・・・と悩んでいる方、ご期待ください。(女性企画世話人 三沢美奈子)

スポーツ観戦部会

関東大学対抗戦ラグビー優勝決定戦応援

2025年12月7日(日)国立競技場で行われた関東大学対抗戦ラグビー優勝決定戦早稲田大学対明治大学の試合を16名の会員と応援観戦しました。

会場に着いたところ紫紺の明治色に包まれて圧倒され、試合前から押されている雰囲気でした。試合が始まると勢いが感じられる我が早稲田がFB 矢崎のトライでリードしましたが明治も31分に追いつき前半は10-10の同点でハーフタイムを迎えました。

後半に入ると大勢の応援団の声援の後押しに乗り明治が2トライとPG(ペナルティーゴール)で25-16とリードを広げ早稲田が追いあげる展開となりました。早稲田は35分PGを決めワンチャンスで逆転できる6点差まで詰め寄りその後も猛攻で明治陣内に深く攻め入りましたが最後はトライライン寸前でボールをこぼし万事休す。25-19でノーサイドになり、結果明治大学5年ぶりの優勝、早稲田大学は3位となり暮れから始まる大学選手権に臨むことになりました。

試合終了後は渋谷にて14名で残念会を開き大学選手権での早稲田の雪辱を祈りながらたっぷりと美酒をいただき盛り上がりました。

(スポーツ観戦部会長 狩野俊夫)

相撲部サポーターズ倶楽部

早稲田相撲部より81年ぶり角界入り

2月2日に嬉しいニュースが入ってきました。

早稲田大学相撲部主将で4年生の川副楓馬さんが大相撲の安治川部屋に入門することになり、早大キャンパスで親方と共に入門会見を行いました。早大相撲部出身では笠置山依頼81年ぶりだそうです。

目黒稲門会では6~7年前から瀬下智子会員の同級生である室伏さんが相撲部の監督をされていたのが縁で、少人数でしたが東伏見道場で行われたちゃんこ会へ行ったり、国技館で行われた大学選手権を応援に駆け付けたりしていました。昨年の秋にもちゃんこ会が行われ、4名の会員とともに参加しました。その席で川副さん他の相撲部員との会話の中に大相撲への入門挑戦の話が出て、いずれ早稲田から力士が誕生するという希望をもちましたが、まさかこんなに早く実現するとは、喜びと共に大変驚きました。

安治川部屋には初場所新大関で優勝を果たした安青錦が所属、2003年生まれば川副楓馬さんと同年齢です。川副楓馬さんの出身高校は熊本の文徳学園、全国高校総体団体優勝のメンバーで実力と実績を持ち将来を十分期待できます。

入門した安治川部屋ですが、親方は青森県出身で元関脇安美錦、2019年に引退後早稲田大学大学院でスポーツビジネスを学び、2022年に伊勢ヶ浜部屋から独立して安治川部屋を立ち上げ、科学的な指導方法で安青錦など勢いのある若手を中心とした部屋として注目されています。また親方の妻絵莉夫人も早大法学部卒、夫婦ともに校友で、現在アスリートマスターの資格を活かして力士の健康管理を支えています。川副楓馬さんのデビューは3月8日より始まる大阪場所の前相撲と聞いています。前相撲の成績により来場所での番付が決まり、関取の道が拓け益々の活躍が期待されます。

また早大相撲部は昨年の夏にBクラスよりAクラスに上がっています。Aクラスには強敵が揃っていて大変ですが、一つでも勝ち上れるよう毎日の稽古に励んでいます。今後川副楓馬関の応援とともに大学現役の相撲部員への応援も一生懸命行いたいと思います。

皆様の心からの応援をお願いします。

(同 狩野俊夫)

会員の広場

合気道の魅力

山中 叶 (67年商)

最近、高齢者や女性の間で静かな人気を集めている武道、合気道をご紹介します。



「武道」と聞くと、激しい動きや若い人向けの厳しい稽古を想像される方も多いかも知れません。しかし、実際の合気道は相手と力比べをするものではなく、無理をせず、体を丁寧に扱いつつ行う武道です。年齢や体力の差を超えて、一緒に稽古ができるところが大きな魅力です。

健康のために何か始めたい、体を動かしたいとは思っていても、激しい運動には不安がある……そんな方にも合気道は向いています。自分の体調に合わせて稽古ができ、無理な動きは求められません。受け身の動きができる程度の体力があれば、70歳を過ぎてから始めても十分に楽しめます。ちなみに私は現在81歳ですが、今も元気に稽古を続けています。さらに言えば、私の師匠は96歳。今なお現役で道場に立ち、私たちに合気道の奥深さを示してくれています。この事実だけでも、合気道がいかに年齢に左右されない武道であるかがお分かりいただけると思います。

合気道の面白さの一つは、女性でも体格の大きな男性を投げることができる点です。力ではなく、体の使い方やタイミングを大切にするため、技が決まった時の爽快感は格別です。また、受け身を身につけることで、転んだ際に頭を打ちにくくなり、日常生活でも転倒予防として大いに役立ちます。これは高齢者にとっても、女性にとっても非常に心強いポイントでしょう。

小学生から90歳近い高齢者まで、年齢や性別を問わず一緒に稽古できる。しかも、相手を尊重しながら楽しく続けられる。合気道は、そんな懐の深い武道です。もし少しでも関心を持たれた方は、インターネットで「合気会」と検索してみてください。ご自宅の近くに、きっと道場が見つかるはずです。

第62回全国大学ラグビー選手権大会

嘉瀬隆幸 (91年政経)

来年こそ「荒ぶる」を

2万人のワセダコールはため息に変わりました。なんとも残念な試合でした。

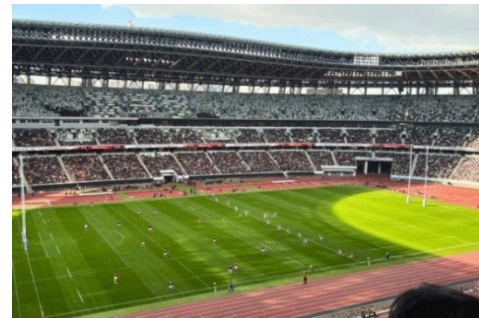
1月11日、快晴のMUFUスタジアム（国立競技場）で、第62回全国大学ラグビー選手権大会決勝を

観戦しました。勝てば6季ぶりの大学日本一。相手は宿敵、明治大学です。実力差はほぼなく、勝つチャンスは十分ありました。

早稲田にはスター選手が揃っています。日本代表で南アフリカからもトライを奪っているフルバック・矢崎由高くん（3年）、キック力とランの突破力が力のスタンドオフ・服部亮太くん（2年）、チームを率いるキャプテンのセンター・野中健吾くん（4年）などなど。とても紹介しきれません。優勝への期待が高まります。

そして「荒ぶる」を生で聞くために、ここに応援にきたのです。「荒ぶる」はラグビー蹴球部の第二部歌。日本一になった時にだけ歌うことが許されます。

観客数は43,000人余り。学生の姿はあまりありませんが、往年のファンが詰めかけていました。早稲田と明治の応援はほぼ半数ずつといった印象です。



両校の校歌が流れ、いよいよキックオフです。しかし、この日の早稲

田は調子が上がりません。ボールを落とすミスが目立ちました。スクラムでも反則を取られる、ハイパントキックのボールを再獲得できない、なによりラインアウトで一切ボールを競らないという闘争心を感じないシーンも目立ちました。

準決勝の帝京大学戦で見せた、服部くんの強気のラン、追いつくことを許さない矢崎くんのランはどこにいつてしまったのでしょうか。

一方の明治は前に出るディフェンスが完璧に機能し、早稲田の攻撃をことごとく止めていました。またスタンドオフ・伊藤龍之介選手（3年）が素晴らしい突破を随所で見せていました。

結果は10対22で完敗。「荒ぶる」はまたもやお預けとなりました。早稲田ファンは肩を落としました。

両校の選手にあらためてエールを送ります。そして早稲田の選手たちには夢を見させてくれたことに、今年も感謝します。

それでも夢は続きます。来シーズン、矢崎くんは4年生、そして服部くんは脂が乗る3年生です。来年こそ、4年生になる伊藤くんが率いる明治を、そして再び帝京を破って、大学日本一を目指しましょう。来年こそがチャンスです。そして国立に「荒ぶる」を響かせるのです。世代を超えて応援できる幸せを感じながら、それに酔いしれましょう。

走る、歌う、繋ぐ！

誰もが主役になれる「早稲田駅伝」

泉 実紀子 (91年一文)

「早稲田駅伝」という、世代や実力を問わず誰もが参加できるイベントをご存じですか？ 「えっ、あの箱根駅伝？」と勘違いした方、惜しい！ でも、その熱量は負けていません。

早稲田駅伝は、14年前から早稲田大学プロデュースで行われているファンランイベントです。今年は1月24日(日)、新横浜の日産スタジアムを舞台に、総勢4000人以上が駆け抜けました。

この大会の魅力は、なんとといっても、あらゆる世代と一緒に走れることです。

箱根駅伝で日本中を沸かせたばかりの早大競走部4年生9名が、引退直前の貴重な姿で一般ランナーと一緒に走り、華を添えてくれました。さらに、野球部や日本拳法部など13の体育会学生チームもゲスト参戦。現役学生から一般男女、50歳以上の「Over50」、そして「稲門会」の部まで、約430チームがそれぞれの想いをタスキに込めてタイムを競いました。



応援部の指揮



駅伝レース遠景

スタジアムが一つになる「早稲田文化」の力

走るだけではないのが早稲田駅伝。スタート前には応援部の指揮のもと、参加者全員で『校歌』や『紺碧の空』を熱唱！ サンプラザ中野くんのライブステージではスタンドも大盛り上がり。いま話題の男子チアチーム・SHOCKERSによるダイナミックな演技には会場から歓声が上がります。

私は12時30分スタートの駅伝に参加しましたが、午前中には元気いっぱいの「キッズラン」や微笑ましい「親子ラン」も開催されていて(プログラム名は大隈ラン)まさに老若男女が主役になれる一日でした。

「走るのはちょっと苦手……」という方でも大丈夫。日産スタジアムという最高のロケーションで、トップアスリートや仲間たちと同じ風を感じて、走り、応援する。そこには、順位以上に価値のある「一体感」が待っています。

みんなで歌う校歌の響きと、走り終わった後の爽快感は、一度味わうとクセになること間違いなし。来年はぜひタスキを繋ぎに新横浜へ！

入会して半年 - 学びと交流の日々

原 宏之 (92年社科)



私は昨年8月に目黒稲門会に入会し、早いもので半年が経ちました。入会当初は、平均年齢が70歳を超えていると伺い、若輩者として一抹の不安、緊張もありましたが、皆さんが心から歓迎してくださり、すぐに打ち解けることができました。

前号109号にも記載させて頂きましたが、92年に卒業後、商社に勤め(まだ現役です)、ハンガリー、インド、中国と駐在し、いずれの場所でも現地稲門会の皆様には大変お世話になり、その恩返しの意味と、第二の人生の充実のために目黒稲門会の門をたたいたわけですが、まさに「集り散じて人は変われど仰ぐは同じき理想の光」を追い求めている方々の集まりでした。

これまで「いち月会」や「音楽を楽しむ会」に参加させていただきましたが、どちらの会でも、先輩方の豊かな人生経験や知識に触れることができ(音楽を楽しむ会では、30年振りに人前でギターを弾きました(笑))、時には昔の早稲田の話もあつたりで、学生時代の哀愁に浸ることがあるも、毎回新たな学びと刺激を頂戴しております。

1月3日には品川稲門会主催の箱根駅伝応援会に参加させて頂き、早稲田大学は惜しくも4位という成績ではありましたが、実際に走る選手を沿道で応援出来ましたし、港区、北区の稲門会も含めた他地区の稲門会の方々とも交流が出来、大変思い出深いイベントでした。

また、コロナ禍により一時休止していた「若木会」も再開の運びとなり、ご縁あって代表世話人を拝命し、若手会員の拡充と、会の更なる若返りを目指し、微力ながら尽力してまいり所存です。世代を超えた交流の場として、若木会が目黒稲門会の新たな活力源となるよう努めてまいります。

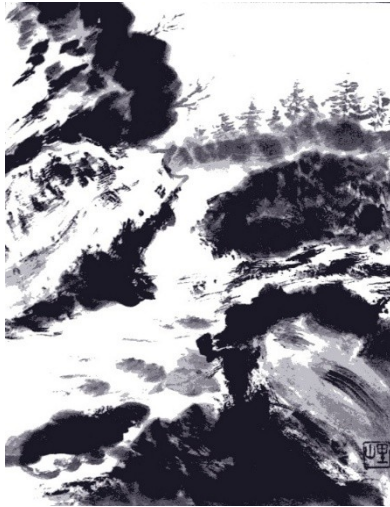
今後も、先輩方から多くのことを学びながら、自分自身も何か貢献できるよう努めていきたいと思っております。入会して半年ですが、会の発展に微力ながらも力を尽くしたいと考えています。

最後になりましたが、温かく迎えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

会員ギャラリー

『笛吹川』 水墨画

牧野武夫 (65年理工)



『油面公園の雪と梅』 写真

伊東ちひろ (家族会員)



新入会員

川北直美 (かわきた なおみ) (95年 商)

目黒稲門会の存在を少し前に初めて知り、入会させて頂きました。

どうぞよろしくお願ひ致します。

出身は熊本で、千葉県市川市で育ちました。目黒在住歴は約20年です。



卒業後はIT系教育会社に勤めていました。2009年夫の仕事で香港へ。家庭和食を外国人に教えつつ、3人目の出産をして3人の子育てをしながら、香港には4年半住みました。2013年シンガポールへ。日本食品アンテナショップのカフェでメニュー開発をしたり、外国人ヘルパーのための家庭和食講座を行ったりしていました。2017年本帰国し、目黒に戻り、子ども英語教室をしましたが、現在は4月からの新たなキャリアを模索中です。

趣味は、ヨガ、旅行、料理、山歩き、お酒を飲むの

もおいしいものを食べるのも大好きです♪

5人家族(夫、長女23歳、長男20歳、次女14歳)で、犬との散歩が日課です。

事務局から

コンプライアンス宣言をご存知ですか

目黒稲門会は2024年4月にコンプライアンス宣言を取りまとめました。全ての会員がこの宣言の主旨を理解して交流し活動することが大切です。ホームページに全文を掲載していますので、ご一読をお願い致します。

【コンプライアンス宣言 前文】

私たちは、基本的人権を尊重し、順法精神に則り、社会的常識を踏まえ行動する事を旨として、目黒稲門会を運営して参りました。

しかしながら、この10年余りで、世の中の状況も変わり、社会的常識の範囲やそれに対する認識も少しずつ変化してきました。

パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、個人情報保護の厳格性など、社会状況の変化の中で、個々人の行動はより一層の規律を求められるようになってきました。

このような状況を踏まえ、この度コンプライアンスを会員全てが改めて認識する事、そしてこれを遵守する為にここにコンプライアンス宣言として取りまとめました。

=====

- ・目黒稲門会年会費の納入について
未納の方には納入依頼の葉書をお送りしていますので確認をお願いいたします。不明の方は事務局までお問い合わせください。
- ・早稲田大学校友会費の納入について
校友会年会費の納入をお願いします。
(納入方法は右記QRコード参照)



【お詫びと訂正】

会報第109号 P6 右欄 旅行部会の記事に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
佐伯文子さんの登山回数【誤】4回→【正】7回

編集後記

節分が過ぎ、早咲き桜の便りも聞こえてきます。柑橘類好きにうれしい季節でもあります。みかんに始まり、ゆず、伊予柑、はっさく、甘夏ときて、これからはデコポン、真打は晩柑でしょうか。書いていると口までもが甘酸っぱくなる様です。そんな渋み・甘さと新鮮さや爽やかさが滲み出てくる記事をお届けします。
(細谷記)